

第8分科会テーマ 特別支援教育の授業づくり

子どもたちの特性にあわせた授業づくりのくふう

提 案 秩父市立秩父第一小学校 教 諭 新井 久美子

1 はじめに

生徒指導や教育相談の主任として、困り感を抱えた子どもたちや不安を訴える保護者、指導に戸惑う同僚の声を聴いていく中で特別支援教育の大切や重要性に気づき特別支援学級を希望して、担任となったのは5年前。出会った子どもたちとの楽しかった日々や、温かく見守って下さる保護者の言葉がけ、同僚の的確なアドバイスが今の私の授業づくりの支えとなっている。

2 学校の概要

秩父第一小学校は、明治6年に大宮学校として創立して以来、開校150周年を迎える長い歴史と伝統を誇る学校である。秩父市の中心地に位置し、明るく素直な141名の子どもたちと、協力的な保護者、地域の方々に支えられている。また、埼玉県立秩父特別支援学校との交流を行ったり、通級指導「ことばときこえの教室」を設置したりと、秩父地区の特別支援教育の拠点校ともなっている。

本校の特別支援学級は、知的学級3名、自閉・情緒学級4名、病弱・身体虚弱学級1名の3クラス、計8名の児童が在籍している。また、本校の設置されている通級指導「きこえとことば教室」には、秩父郡市内の小学校から通ってきている。



秩父市イメージキャラクター

ポテくまん

3 取組の実際

(1) 本校の取り組み

児童一人一人の支援プランをもとに、子どもたちの特性にあわせた授業づくりをするためのくふう。



《Plan=計画：児童観察・面談》

それぞれの児童の特性から一人一人の課題・目標を設定し、課題解決・目標達成のために何をすべきか仮説を立てる。
児童の興味関心、満足度、達成感を生み出すために、具体的に「いつ」「何を」「どのように（順序）」「なぜするのか」「いつまで行うのか」等の検討を行い、学習計画を作成する。

授業の実践

《Action=改善：保護者、職員の協力》

それぞれの児童の特性に沿った学習内容であったか？楽しく活動出来ていたのか？等の問題点を見つけ出し、対応策を考える。

良かった点は継続的にいき、悪かった部分はどのように改善すべきかを考える。修正を加えて、次のPlanへと繋げる。

- ①保護者との連携
- ②在籍学級担任との連携
- ③小・中学校間の連携
- ④特別支援学校との連携
- ⑤行政（福祉課・教育委員会）と連携
- ⑥医療機関等との連携

支援学級の授業づくり

- ・児童理解（関係づくり）
- ・保護者、地域、職員の連携
- ・時間・空間・仲間

《Do=実行：スモールステップ》

計画をもとに実行する。
※知的学級→個人から集団
※自閉・情緒学級→個人
繰り返し
ICTの活用
ワークシートの活用

《Check=評価：認める。褒める。》

児童が興味関心をもち活動していたか？等、児童の取組の様子や保護者、支援員、在籍学級の担任の助言等から具体的な根拠となる裏付けも行う。

個人の課題に対する評価、目標に対する達成度等、良かった点と悪かった点を客観的に分析する。どうしてそうなったかという要因を振り返る。

- ①振り返りノート
- ②週の予定表
- ③支援学級だより

(2) 事例

自閉・情緒学級の2年生(4名)は、休み時間は虫探しに夢中になりバッタやカマキリなどを捕まえては嬉しそうに虫籠に入れている。外遊びを好む子どもたちだが、全身を使って体を動かすことは少ない。虫探しに興味を薄れると、ブロック等を活用したりして室内遊びをしている。4名とも姿勢の保持が難しく、学習の姿勢はすぐに崩れてしまう。また、手先の不器用さに合わせて体を上手く使ってジャンプしたり回転したりすることも難しい。相手と合わせて行動することも難しく、自分のペースや独自のルールで物事を進めてしまうことが多い。しかし、友達と一緒に遊びたい、楽しみたいという気持ちをもっており、関わろうと意欲を見せる場面もある。そこで友達とかかわり合いながら体を動かす自立活動の内容区分の中の「5 身体の動き(1) 姿勢と運動・動作の 基本的技能に関すること」を中心に取り扱い、身体を動かすことや友達と合わせることの心地よさを味わいながら身体能力を高め協調性もたせていきたいと考えた。

① 共通目標

- 活動の流れややり方を理解し、約束を守って友達と一緒に活動できる。3-(1) 3-(4)
- 自分のめあてをもち、基本的な動きを身に付ける。5-(1)

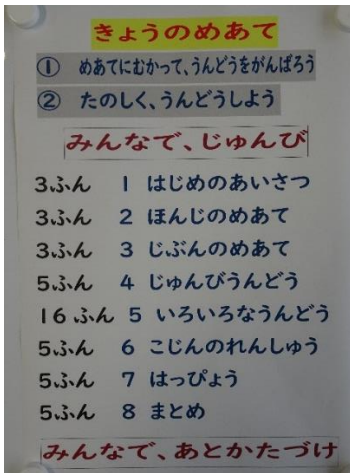
② 児童の実態及び個人目標



トランポリン 場の設定

	活動に関わる実態	活動の目標
A	柔軟運動が苦手で、姿勢の保持も難しい。回転技で姿勢が崩れる。	途中で諦めないで、チャレンジする。友達の演技をよい姿勢で見る。
B	自分のペースで、物事や活動を進めていきたい思いが強い。	教師の指示を聞き、自分勝手な行動をしない。演技の順番を守る。
C	活動的で意欲もある。自己アピールが多い。指示を正確に聞き取れない。	指示を聞いて、落ち着いて運動をする。安定した動きを増やす。
D	何事も真面目に取り組む。運動に関しては、苦手意識がある。	めあてに向かって、よりよい動きを考えながら挑戦する。

③ 活動



1時間の流れの確認をする



個人のめあてを提示する



ワークシートの活用



よい姿勢とは?



仲良し4人組

4 成果と課題

特性にあわせた授業づくりを行うためには、担任が児童と保護者との信頼関係を深めながら、児童理解を行い、計画を立て、スモールステップで活動し、適切な評価するとともに、保護者・地域、学校の教職員と連携することが大切である。また、一人一人の特性にあわせた教材やその教材を提供するタイミング、場の設定、友だちとの良好な関係性も不可欠である。一人一人の特性に合わせた授業づくりのくふうに取り組む中で、子どもたちが主体的に活動する場面が増えた。しかし、やや困難なめあてに取り組むことは難しい。困難なめあてにもくふうしながら取り組めるよう引き続き支援を行いたいと思う。

5 おわりに

子どもたちの特性は、他教科においてもそれぞれの拘りや特徴がある。特別支援教育や授業づくりについて更に研修を深め、Plan⇒Do⇒Check⇒Actionにもあてはめて取り組んでいきたいと思う。